

東京三栄会は連結経営重視を打ち出す三井物産の関係会社の会として1979年に設立されました。本シリーズでは「三栄会版プロジェクトX」と銘打って、メンバー企業で活躍する皆さんの「挑戦と変革の物語」を描くことで、今、新たなチャレンジを迫られている三井物産と東京三栄会各社の社員に向け「挑戦への勇気」を伝えていきます。

お問い合わせ先：業務統括部総括室 / 平野 ☎7569
東京三栄会ホームページ：http://www.san-eikai.or.jp

「環境に優しい資源である木を有効に活用すること」を基本方針に 環境マネジメントシステムISO14001を取得

米田 誠 まい た さん 三井物産ハウステクノ(株)ISO推進グループ室長

環境に配慮した木造建築物の 開発・設計・施工・販売を行う

三井物産ハウステクノ(株)では昨年十二月十日に、支店・営業所を

含む全社で国際的な環境マネジメントシステム規格「ISO14001」の認証を取得しました。登録した環境マネジメントシステムは、「住宅ならびに大型木構造建築物の開発、設計、施工、販売にかかわるすべての活動」です。

同社は二〇〇〇年八月、三井木材工業(株)から「三井ハウス」の住宅事業と大型木構造事業が分離独立して設立。「環境に優しい資源である木を有効に活用すること」を基本方針に、木材を使用した建築物を市場に提供する事業そのも



三井物産ハウステクノ(株)の米田さん

のが環境に適していると位置付け、住宅性能の向上、化学物質への対策、産業廃棄物の減量などの環境目標を各部門がそれぞれ設定・実践しています。

今回のISO14001認証取得を一手に引き受けたのが、米田ISO推進グループ室長です。前身の三井木材工業の住宅事業本部に所属していた七年前からISO推進業務に就き、以後、一貫してISOの認証取得に携わってきました。

証取得が日常的ではなかったため一から勉強を始めました。「勉強を続ける中で、品質管理の重要性が分かってきました」と語ります。まずはプレカット工場から始まり、各部門でISO9001(品質管理マネジメントシステム規格)を取得、次なる目標としてISO14001の取得に挑むことになりました。

米田室長は「社会が環境に敏感になってきている。新会社が全社で取り組めるISO14001に

チャレンジする時期ではないか」と考え、トップに具申し了解を得ました。しかし、動き出してみれば、今度は五百人強の全社員が対象。工場部門だけでなく、東京・札幌・大阪の事業所が加わり、準備する書類もけた外れに多かったため不安と焦燥感の中、米田室長の不眠不休の作業が始まりました。

苦労した分、中身の濃い 環境マネジメントシステム構築

社長が昨年の年頭に、「今年度中の取得を目指す」と宣言。環境方針策定と全社員への通知、各部門の環境管理責任者の指名、委員会の構成、内部監査教育の実施、と矢継ぎ早に対策を講じ、昨年四月に各部門の目標設定も終え、ようやく具体的な活動に着手できたそうです。

ISO14001は、コンサルタント専門業者に依頼して取得を進めるのが多いようですが、米田室長からは手づくりでチャレンジ。「苦労も多かったですが、中身の濃いものが出来上がりました」と

自信を込めて言います。併せて、環境に配慮した住宅も開発され、商品から日常業務の些細なことから環境に対する取り組みを一歩一歩進めています。

木造住宅は木材を多量に使ったため、環境負荷が高いという意見がありますが、米田室長は「その主張は的外れです。木造住宅は木を有効に活用しますので、製品の製造過程で環境を悪くするような副産物を排出しません。ですから、木造住宅は環境に優しい資源活用で、事業を進めること自体が環境に優しい住宅が増えることにつながります」と語ります。

最後に、ISO14001の取得を目指す企業の方々に、「社員を一つの目標に向けるには大きな力が必要ですが、軋轢(あやう)が出てくるかもしれないませんが、頑張っただけで送りました。」

(リポーター…東京三栄会広報委員
長・三井物産ハウステクノ(株)

／安藤康綱